

# 汽

キ

〔2年〕

7画  
ミ  
シ  
シ  
シ  
シ  
シ  
シ  
汽

〔なりたち〕 蒸気(じょうき)の立ち昇(のぼ)る形(かたち)を表(あらわ)した気(き)と、シ(さんずい)との会意(かいい)形声(けいせい)字(じ)。水蒸(すいじょう)気(き)という意味(いみ)の字(じ)。蒸(じょう)気(き)(湯(ゆ)気(き))を表(あらわ)した字(じ)。



いみとじゆくこ

▼蒸(じょう)気(き)。湯(ゆ)気(き)。汽(き)車(しゃ)：蒸(じょう)気(き)の力(ちから)を利用(りよう)して走(は)る列(れつ)車(しゃ)。

汽(き)船(せん)：蒸(じょう)気(き)の力(ちから)を利用(りよう)して航(こう)行(こう)する船(ふね)。特(とく)に大(おほ)型(がた)のもの

をいう。汽(き)笛(ふえ)：蒸(じょう)気(き)を吹(ふ)き出(だ)させて鳴(な)らす笛(ふえ)。汽(き)車(しゃ)や汽(き)船(せん)などが鳴(な)らす笛(ふえ)。

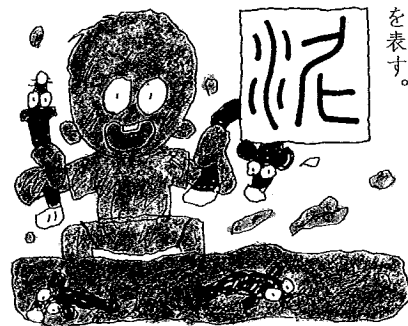
# 汽泥

# 泥

デイ  
どろ

8画  
シ  
シ  
シ  
シ  
シ  
泥

〔なりたち〕 人(ひと)の交(まじ)わる意味(いみ)の尼(に)〔泥(ぬ)の本(ほん)字(じ)と、シ(さんずい)との会意(かいい)形声(けいせい)字(じ)。水(みづ)と土(つち)と混(ま)交(まじ)して、どろどろしたどろどろを表現(あらわ)した字(じ)。転(てん)じて、「いつまでも気(き)になる(なすむ)」ことを表(あらわ)す。



いみとじゆくこ

▼泥(ぬ)。泥(ぬ)土(ど)：①泥(ぬ)。②全(ぜん)く価(か)値(ち)の無(な)いものたどえ。

泥(ぬ)沼(ぬま)：泥(ぬ)の深(ふか)い沼(ぬま)。用(よう)例(れい)泥(ぬ)沼(ぬま)にはまり込(こ)む(悪い(わるい)状態(じょうたい)に落ち込(おちこ)んで、なかなか抜(ぬ)けだせないこと(こと)のたどえ。)

雲(うん)泥(ぬ)：雲(うん)と泥(ぬ)。用(よう)例(れい)雲(うん)泥(ぬ)の差(さ)。(大(おほ)変(へん)な差(さ)。天(てん)と地(ち)ほども違(ちが)うという意(い)味(み)。)

泥(ぬ)仕(し)合(あ)い：互(たが)いに相(あ)いあいの欠(け)点(てん)や悪(あく)事(じ)を暴(は)き合(あ)う醜(みにく)い争(まじ)い。泥(ぬ)田(でん)の中(なか)の争(まじ)いというこ

から。

▼泥(ぬ)に似(に)たもの。泥(ぬ)炭(たん)：質(しつ)の悪(わる)い石(いし)炭(たん)。金(きん)泥(ぬ)：金(きん)粉(こな)をにかわで溶(と)いたもの。書(しよ)画(が)用(よう)。

▼こたわる。拘(こう)泥(ぬ)：こたわること。よみかた 泥(ぬ)酔(すい)・銀(ぎん)泥(ぬ)・朱(しゆ)泥(ぬ)・泥(ぬ)棒(ぼう)

# 潔

ケツ  
いんごうじゆん

〔5年〕

15画  
ミ  
シ  
シ  
シ  
シ  
シ  
シ  
潔

〔なりたち〕 旧(きゅう)字(じ)体(たい)は潔(けつ)。罪(つみ)や汚(けが)れを清(きよ)めるために神(かみ)に供(とも)える麻(あ)糸(いと)の累(かさね)と、シ(さんずい)との会意(かいい)形声(けいせい)字(じ)で、「清(きよ)められた水(みづ)」という意(い)味(み)の字(じ)。「汚(けが)れない・心(こころ)や行(こと)いが清(きよ)い・いさぎよい」こと。

いみとじゆくこ  
▼潔(けつ)。汚(けが)れがない。清(きよ)い。潔(けつ)白(はく)：心(こころ)や行(こと)いが清(きよ)く、汚(けが)れないこと。用(よう)例(れい)清(きよ)廉(れん)潔(けつ)白(はく)廉(れん)潔(けつ)：心(こころ)や行(こと)いが清(きよ)く正(ただ)しいこと。「廉(れん)」も、清(きよ)く正(ただ)しいという意(い)味(み)。用(よう)例(れい)廉(れん)潔(けつ)の士(し)。(廉(れん)潔(けつ)な人(ひと)。)

高(こう)潔(けつ)：気(き)高(たか)く清(きよ)いこと。用(よう)例(れい)高(こう)潔(けつ)な人(ひと)柄(がら)。

純(じゆん)潔(けつ)：心(こころ)や体(たい)が清(きよ)く、汚(けが)れないこと。潔(けつ)癖(くせき)：不(ふ)正(ただ)しや不(ふ)潔(けつ)を極(きま)度(ど)に嫌(きら)う性(せい)質(しつ)。

▼汚(けが)れていないこと。清(きよ)潔(けつ)：汚(けが)れがなく、きれいなこと。用(よう)例(れい)不(ふ)潔(けつ)。

▼すつきりしている。簡(かん)潔(けつ)：簡(かん)単(たん)で、すつきりしていること。要(よう)領(りやう)よくまとまっていること。用(よう)例(れい)簡(かん)潔(けつ)な文章(ぶんしょう)。

よみかた 潔(けつ)斎(さい)・不(ふ)潔(けつ)

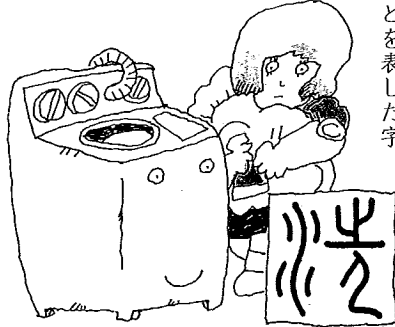
# 洗

セン  
あらう

〔6年〕

9画  
ミ  
シ  
シ  
シ  
シ  
洗

〔なりたち〕 洗(せん) (足(あし)先(さき)の意(い)味(み)ではだしのこ)の意(い)味(み)の先(さき)と、シ(さんずい)との会意(かいい)形声(けいせい)字(じ)。足(あし)を洗(せん)うという意(い)味(み)の字(じ)で、広(ひろ)く洗(せん)い清(きよ)めることを表(あらわ)した字(じ)。



いみとじゆくこ

▼洗(せん)う。洗(せん)濯(じやく)：衣(い)服(ふく)なごの汚(けが)れを洗(せん)い清(きよ)めること。用(よう)例(れい)洗(せん)濯(じやく)物(ぶつ)

洗(せん)剤(ざい)：物(ぶつ)を洗(せん)うたための薬(やく)品(ひん)。洗(せん)面(めん)：顔(かほ)を洗(せん)うこと。洗(せん)顔(がん)。

用(よう)例(れい)洗(せん)面(めん)器(き)洗(せん)淨(じやう)：きれいに洗(せん)い清(きよ)めること。

洗(せん)眼(がん)：目(め)を洗(せん)ってよごれをとる。用(よう)例(れい)洗(せん)眼(がん)薬(やく)

洗(せん)礼(らい)：①キリス(て)ト教(きょう)で、信(しん)者(しや)になる時(とき)に行(な)う儀(ぎ)式(しき)。②あ

る重(じゆう)大(だい)な事(こと)を初(はじめて)めて経(けい)験(けん)するこ

と。洗(せん)練(れん)：あか抜(ぬ)けして優(ゆう)雅(が)なこと。主(しゅ)に人(ひと)柄(がら)、趣(おも)味(み)などについていう。よ

く練(れん)り上(あ)げることから。よみかた 洗(せん)顔(がん)・洗(せん)髪(はつ)・水(みづ)洗(せん)・筆(ひつ)洗(せん)・手(て)洗(せん)い・水(みづ)洗(せん)い

# 洗潔



よみかた 洗(せん)斎(さい)・不(ふ)潔(けつ)